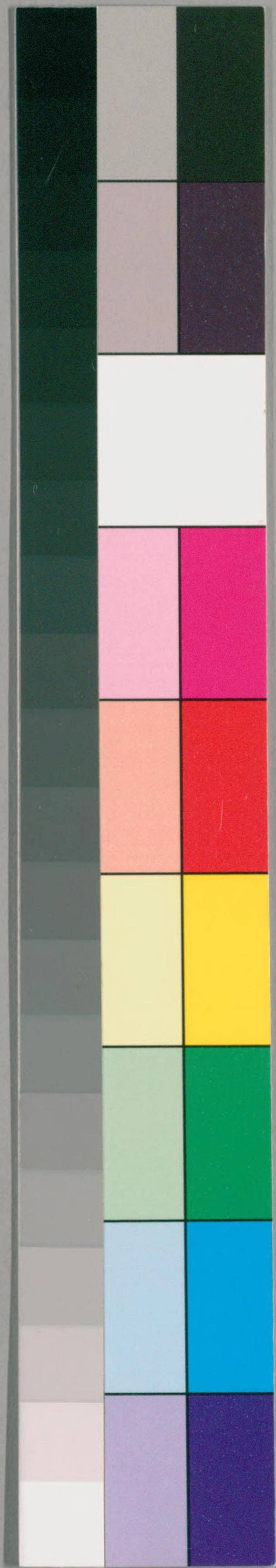




特1  
2223



国立国会図書館 タイトル『琴後集 15巻』 請求記号 特1-2223

ガラス使用





琴後集序

和歌詩也

短歌絶句

朝夷文庫

也長歌

歌行之類也六義既備抑揚頓挫

亦如詩然余獨讀藤式部源氏傳

知左氏莊周司馬遷之文可以

言為之源氏傳以上何其無聞也

源氏傳以後何其無繼之者也

文既有左氏莊周司馬遷之文安



三





特1  
2223

得無唐宋八家之文哉、求之於古  
而不得、求之於今、而得之於平春  
海先生、先生有琴後集、如千卷、其  
歌則不復論、余獨論其文、曰、記廿  
一首、序十八首、題跋十二首、書牘  
廿三首、雜文三首、墓碑二首、祭文  
一首、外集卅八首、編文具此諸體、  
非唐宋八家別集之制乎、升降前

却、不失分寸、文其步驟也、抑揚開  
闔、操縱起伏、文其變化也、整齊而  
錯落、勃窣而婉曲、文其辭氣也、前  
提後襯、回抱接初、留筍待後、奇峰  
突起、橫雲斷山、文其形勢也、截然  
有界、段落之文也、綿然相屬、過接  
之文也、承上起下、轉捩之文也、作  
文具此數法、非唐宋八家之筆乎、

序

一





先生非獨其於文、其於論道亦  
云、我邦之所道、周公孔子之道、舍  
周公孔子之道、而別取道於我、太  
古、吾未之聞也、故和字非我字、假  
漢字充我音也、衣服冠冕、皆隋唐  
制度也、百官有司、皆學唐制、稍變  
之也、律令格式、皆摹倣唐制也、博  
士立、明經、文章、天文、陰陽、律算、音

諸科、不立和學、歌學、博士、所謂和  
歌、博士者、出自江、直、房、戲、稱、和、學  
歌、學、之、名、考、之、古、未、之、有、也、和、學  
也者、儒者之通  
本朝典故、言辭也、已、歌學也者、儒者  
而作歌也、已、舍、周、公、孔、子、之、道、而  
別、建、道、者、吾、未、之、聞、也、天、竺、有、釋  
氏、之、道、後、漢、傳、之、而、盛、於、隋、唐、唐



序  
三  
之詩人有儒有僧、李白杜甫韓愈、  
儂也、王維白居易、內佛外儒也、其  
詩非風雅之音、則釋氏之偈也、宮  
人工女、亦浴二家風者也、吾儕雖  
庸陋亦儒也、儂而歌者也、  
本朝制度文物、已皆奉周公孔子遺  
法、而其信佛者亦多、故  
本朝之俗少而儒、老而佛、自中古以

來盡然、由是觀之、非儒則佛、舍此  
二道而別建道、吾未之聞也、今之  
和學者、耻我邦別無道、牽強傅會、  
妄引我古史、欺人欺己、吾安得不  
辨之哉、質賢先生之持論有超於  
世所謂和學者流、互乎先生之文、  
卓異儂傑、有唐宋八家之風矣、

日本百二十世天皇文化七年秋九月

陸奥葛質序

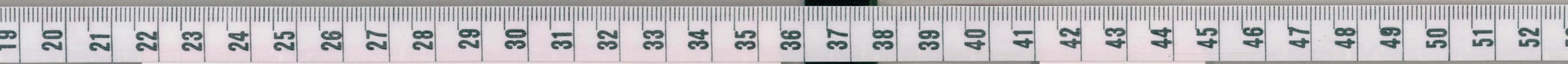


Handwritten text in a rectangular frame, likely bleed-through from the reverse side of the page.

自序

Main body of handwritten text in the left column, starting with '昔父の昔よいまは...'

琴後集序





ふにいつとてたもひはふはのあはまきあおの  
家れ寶なれいそふれよ所得を勢てうれ  
うらうらとあたまうけに魚をれれ琴ひく  
事きたるはねと縁なきはまきうわてたそひ  
と為理一ためしそあはれはてあれをわのかこ  
くひ人よてせそことかひよ視一火を理一琴志  
理よつ一よら忠をな書てまうられよとの  
なよとそ誠入るあまらたのん志りれ人  
まてなつていけいそさうあひまき

うれ葉もひいふうしまよそかきあはあ強ハ  
まかあわれう草にに葉あわやれといふ  
うらうれ一まき事なめさるうらまよとの葉  
城人まにまれま一ゆらん事ハまほし  
まわらよまゆれをあまことたもひよよせ  
らまらあ一もの誠いふにたうけはれん  
ほいあ一とそかきも志の魚をれわいそら  
なまらうらんとあうれ一をれとてんをれま  
人かあつ一があまらうらまはあはあそて

琴後集序





ゆくせりて名をさるいりりとよほなるらる琴後  
よとあいに海をれとそたれまきさわまう  
たふあふきつけを勢い

文化のせとせおみれ月ついで

琴志理の公好

琴後集卷一

春歌

年内立ま

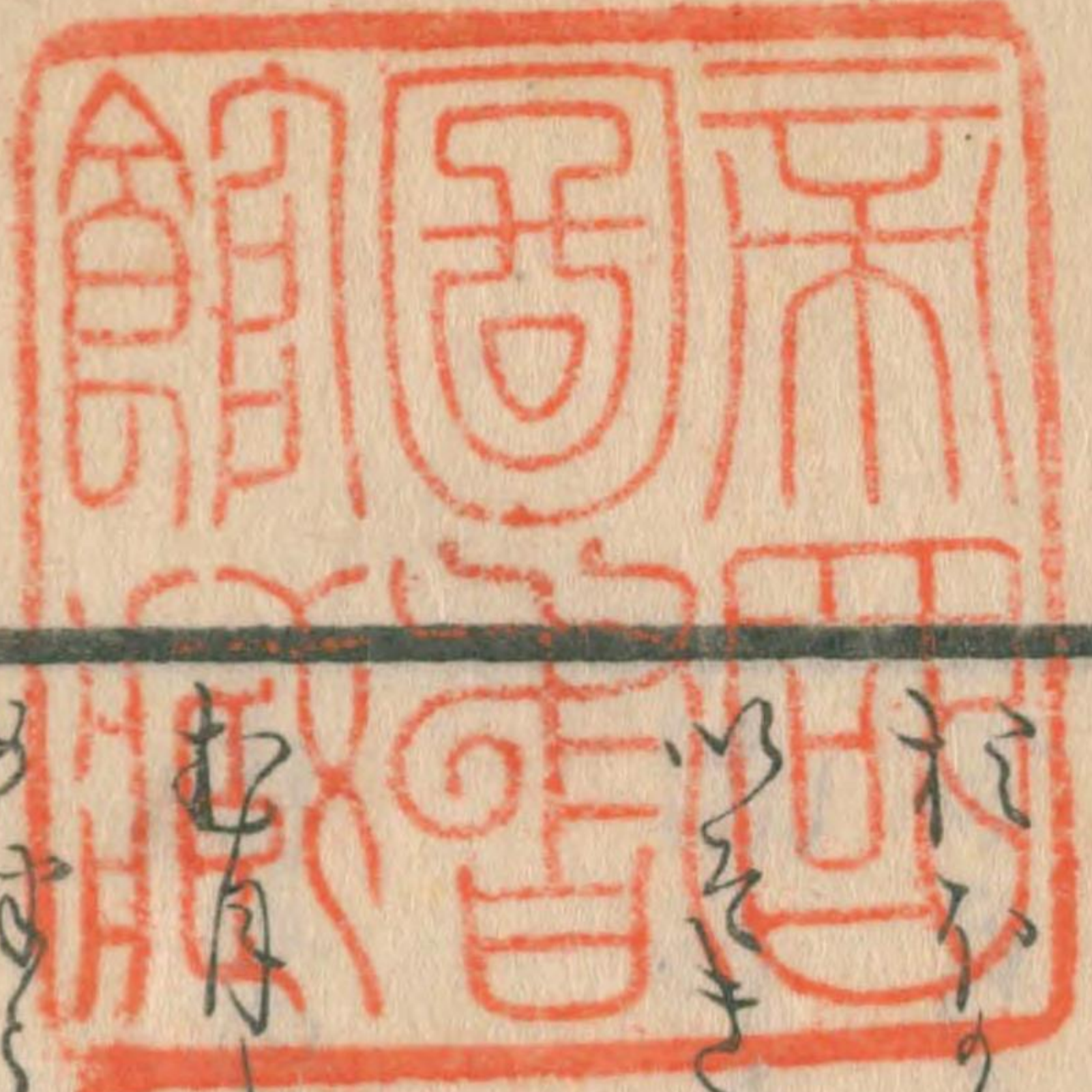
平春海

たふあふきつけを勢い  
ゆとあいに海をれとそたれまきさわまう  
たふあふきつけを勢い

元日

たふあふきつけを勢い  
ゆとあいに海をれとそたれまきさわまう  
たふあふきつけを勢い

琴後集一



Small handwritten mark or characters on the right edge of the page.





さかえのしるしは船戸もたへるのたもつとせしむるにまはる  
え日さのちりきりかへるまはるに

禁中一立巻

清まのしるしは船戸もたへるのたもつとせしむるにまはる  
え日さのちりきりかへるまはるに

あやのまぬ布のちりきりかへるまはるに  
え日さのちりきりかへるまはるに

夢遊巻

あやのまぬ布のちりきりかへるまはるに  
え日さのちりきりかへるまはるに

あやのまぬ布のちりきりかへるまはるに

あやのまぬ布のちりきりかへるまはるに  
え日さのちりきりかへるまはるに

子巻

あやのまぬ布のちりきりかへるまはるに

氷解

あやのまぬ布のちりきりかへるまはるに

泉響滴巻風

あやのまぬ布のちりきりかへるまはるに

風光見新

あやのまぬ布のちりきりかへるまはるに



江上無事

つらなみもよもひは江のほとけの御心  
花の色は

はのよもひは河のほとけの御心  
毎山有花

春日

あつたむの御心は  
春日の御心

あつたむの御心は  
春日の御心

美人意中

あつたむの御心は  
美人意中

白河少将殿

あつたむの御心は  
白河少将殿

泉暖字色春

あつたむの御心は  
泉暖字色春

家ノ歌

あつたむの御心は  
家ノ歌

風和芳

あつたむの御心は  
風和芳





子日

子の日はまふのたぢやとていふはひいれてお世のまぢかぢ  
深うはまふのやふねのすゝも袖のまぢかぢお世のまぢかぢ  
お世のまぢかぢお世のまぢかぢお世のまぢかぢお世のまぢかぢ

長枝の家の子日

おもしろいもいふていふお世のまぢかぢお世のまぢかぢ  
かくいふお世のまぢかぢお世のまぢかぢお世のまぢかぢ  
お世のまぢかぢお世のまぢかぢお世のまぢかぢお世のまぢかぢ  
お世のまぢかぢお世のまぢかぢお世のまぢかぢお世のまぢかぢ  
お世のまぢかぢお世のまぢかぢお世のまぢかぢお世のまぢかぢ

百首集の中より正歌子日

お世のまぢかぢお世のまぢかぢお世のまぢかぢお世のまぢかぢ

梅の子日

お世のまぢかぢお世のまぢかぢお世のまぢかぢお世のまぢかぢ

賭弓

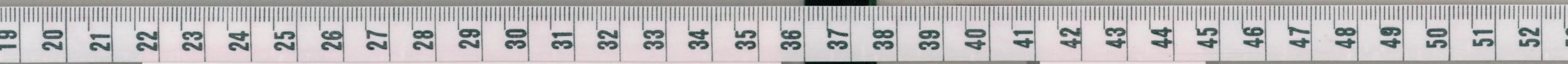
お世のまぢかぢお世のまぢかぢお世のまぢかぢお世のまぢかぢ

雲

お世のまぢかぢお世のまぢかぢお世のまぢかぢお世のまぢかぢ

初春霞

お世のまぢかぢお世のまぢかぢお世のまぢかぢお世のまぢかぢ





山霞

あかすみの山霞 けしき見えなすむらさき霞のさかき

暮山霞

うららかにあかすみの山霞 けしき見えなすむらさき霞のさかき

暮山霞

まなかにあかすみの山霞 けしき見えなすむらさき霞のさかき

山霞

みよしの山霞 けしき見えなすむらさき霞のさかき

遥峰帯吹霞

夕日にあかすみの山霞 けしき見えなすむらさき霞のさかき

ゆふの山霞 けしき見えなすむらさき霞のさかき

浦霞

舟の江の浦の霞 けしき見えなすむらさき霞のさかき

江霞

あまの江の浦の霞 けしき見えなすむらさき霞のさかき

行旅霞

あまの江の浦の霞 けしき見えなすむらさき霞のさかき

松原霞

あまの江の浦の霞 けしき見えなすむらさき霞のさかき

湖上霞

あまの江の浦の霞 けしき見えなすむらさき霞のさかき

暮烟

あまの江の浦の霞 けしき見えなすむらさき霞のさかき





入日次遠山もわの里みえてかすみもゆるゆきよ

鶯

花はまきかへばさのうらみもやまのうらみもさへば  
うらみのうらみもさへばさのうらみもさへば  
さへばさのうらみもさへばさのうらみもさへば

早女守

夢もかゝのさへんさへんさへんさへんさへんさへん

南枝暖待守

うらみのうらみもさへんさへんさへんさへんさへん

夢のうらみもさへんさへんさへんさへんさへん

かくし世のまをよはなる岩るまゝのまもりさへん

夢のうらみも

うらみのうらみもさへんさへんさへんさへんさへん

竹裡守

うらみのうらみもさへんさへんさへんさへんさへん

窓裏

うらみのうらみもさへんさへんさへんさへんさへん

閑居守





その人を見てもうたすれやうかたし我々かへりしれよのうへす  
里鶯

かたも竹田のさかきよきうたはもていしよきよきよきよきよ  
まへすまのうのいひきよきよきよきよきよきよきよきよきよ

雨後雪

ぬくもゆつれし雪のがくしゆきあやふなく雪たうへ雪

若菜

はめあかつ子せのしやうけしやうたのあやふなく雪たうへ雪

多き摘若菜

きよきよきよきよきよきよきよきよきよきよきよきよきよ

雪中求若菜

かきかてんきよきよ雪乃きよきよはきよきよきよきよきよきよ

人よわのあやふなく

初んきのしやうけのあやふなくきよきよきよきよきよきよきよ

女もももれしむきよきよ

ももももれしむきよきよきよきよきよきよきよきよきよきよ

春雪

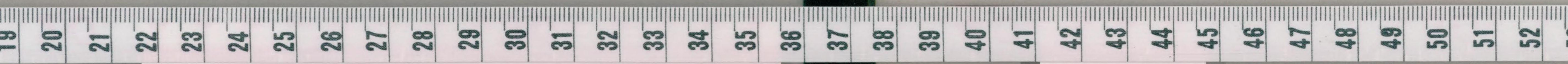
ももももれしむきよきよきよきよきよきよきよきよきよきよ

残雪

ぬすれしむきよきよきよきよきよきよきよきよきよきよきよ

雪消山を静

雪消山を静きよきよきよきよきよきよきよきよきよきよきよ





梅

言候とてはば神さしをなすなりとての梅は乃た人のさし  
なりとてふふの思ふいとみし夏のたもきうと梅乃下き  
ま風いりけりもまよふ梅の香なりぬ神やもれある  
以後の香もたれり花のこほりなりとていふとは人はま  
梅正風静

早く風をあらふかまの梅よりたのれをかきさるるめは  
霞ふかかたけの梅乃とはふくまはれぬ風さし  
隣梅

中一垣のこゑもよほすまのめはれり  
一もたの梅をかこふ交とてなすは梅乃たけり

里梅

言わう春ふ夏のあうやむむと縁さの蓮乃夏のぬふの  
梅の花さしうふし

ふとやちうあせとてやまのあまもあはれり  
梅近夜香

舟よりふこほりもあはれりか  
夕梅

梅のほりもあはれり  
日あ梅

梅乃とてあはれりやうれとみ  
かきもよほいふもあはれり





月夜よしののちさうそ人の心きれの折とんころば  
さく梅のよしのひよりやめてゆくは月のよきよき

月の夜梅をこれに

月よき梅の香清しいさきはこの下きふ松うほ

かつこの梅えはあうて

たのばあふなう光をかた祿まかされの香おこるお

梅浮水

花の香を清ふたしてゆくも不氣とよむる露の梅う枝

笠川翁源無常ふともなひてきみの梅谷乃うめ

えはあうて

ちる梅お中しくまもたもかえす雪のあゆんちのこ

紅梅

たよあかきうたゆの梅のこれうも文甲う色このれさ

一校をゆのゆはささくゆれの折ふかきんこのやわ梅

ぬのうもあ梅

ま雨ういゆうう兜のこれあわううんこは梅うけ

梅お白

まもあかきあさぬ梅のさうの斗ゆは梅のあは

紅梅白梅をゆいこ梅なうまう

あはの香の梅をぬ梅のゆあきい梅のきもあみ

梅梅浮水

水上のきり中いつことたつゆいりあう香れくるさめをかき波





柳

あけをきく風は海を渡る柳をかすみかきかへしうきうき  
よしかき柳のいよきみとらるうけえのこほもしるもふゆ

柳系録新

香のぬれかきかきかき柳系ばのふかきかきかきかきかき

垂柳花水

あけをきく風は海を渡る柳をかすみかきかへしうきうき

垂柳花水

あけをきく風は海を渡る柳をかすみかきかへしうきうき

垂柳花水

あけをきく風は海を渡る柳をかすみかきかへしうきうき

柳池のまを拂ふ

あけをきく風は海を渡る柳をかすみかきかへしうきうき

水色柳

あけをきく風は海を渡る柳をかすみかきかへしうきうき

あけ柳

あけをきく風は海を渡る柳をかすみかきかへしうきうき

河邊柳

あけをきく風は海を渡る柳をかすみかきかへしうきうき

雨巾柳

あけをきく風は海を渡る柳をかすみかきかへしうきうき

柳雲





あきみより霧をむきみる半一ねとてしるす喜柳の糸  
梅の雪のかくれさ

柳似烟

春風のかすむるまよ〜河〜ふをれぬきつや柳か〜  
雪のひらきつゝなるか

けの雨を七日ぬりき〜か〜し〜  
破草草

蕨

あよれるかきもみとのひれさ〜  
神〜

百景の弁一景を子殿

鏡を〜  
初午いふはま〜

榴荷止枚のも〜  
かき〜  
みよ〜  
いあ〜

春日祭

あかみのる乃〜





華人のまきよるもあはれむのやうにふりきりて  
まき神祇

たはつたやまふやうにいのおとここの社よぬきんまはる  
若清の院時象

いかによかきのかれきたまふなるうてかの竹乃若松かえ  
まきのよふかまのけきたもりの若松の院時象  
若月

雲々たはれよの後のれならんあはれもろけまきの月  
雲中一月

かすむねの月もききたるけりきりいかにぬきんまはる  
江上まき月

任の江やばるえの波乃かすむねのあはれもろけまきの月  
江上まき月

すもたきまのたてすあはれよの月やあはれもろけまきの浦人  
あつて若月

あはれもろけまきのあはれもろけまきの月やあはれもろけまきの  
幽栖まき月

いかにまきのあはれもろけまきのあはれもろけまきの月  
若月幽

さしはれまきのあはれもろけまきのあはれもろけまきの月  
月入花灘暗

よつ流あまのれよの八月のあはれもろけまきのあはれもろけまきの月  
琴後集一



曉文五月

明ゆく千歳のしほの山にきてはばくさるるのち月

春曙

うみゆきしるしのさかすかにあはれはるるのち月

春曙

まはりの下をさかすかにあはれはるるのち月

閑中春曙

さかすかにあはれはるるのち月

春山春曙

さかすかにあはれはるるのち月

秋のさかすかにあはれはるるのち月

秋のさかすか

はるるのさかすかにあはれはるるのち月

蒼山春曙

さかすかにあはれはるるのち月

幽栖春曙

はるるのさかすかにあはれはるるのち月

百景の中閑中春曙

さかすかにあはれはるるのち月

春曙

さかすかにあはれはるるのち月



そとをか〜野〜

帰る

中〜は〜雪〜も〜みえ〜よ〜ゆ〜の〜つ〜を〜裁〜詠〜や〜と〜あ〜こ〜  
雲〜む〜の〜月〜か〜と〜す〜ん〜さ〜か〜し〜る〜う〜花〜な〜は〜う〜た〜か〜し〜る〜と〜

雲中〜野る

と〜れ〜う〜た〜し〜つ〜波〜を〜人〜よ〜み〜え〜と〜ゆ〜き〜あ〜か〜れ〜は〜ゆ〜の〜ゆ〜き〜  
百首分れ中〜澤をま〜物

祢〜下〜き〜の〜の〜野〜の〜ま〜よ〜か〜れ〜か〜と〜物〜の〜ゆ〜を〜あ〜れ〜ま〜ゆ〜し〜る〜

雑

唯〜あ〜く〜た〜し〜や〜お〜し〜の〜雪〜だ〜も〜し〜ほ〜ろ〜ゆ〜き〜む〜む〜ゆ〜の〜し〜物

雪〜雀

こ〜し〜ら〜き〜し〜あ〜ゆ〜し〜ゆ〜も〜ゆ〜し〜ゆ〜も〜ゆ〜し〜ゆ〜の〜雪〜雀

雪〜雀首

ま〜の〜野〜乃〜す〜これ〜の〜雪〜よ〜あ〜ち〜ま〜は〜ゆ〜き〜む〜む〜ゆ〜の〜雪〜雀首  
た〜し〜て〜あ〜る〜は〜ゆ〜の〜か〜と〜あ〜ゆ〜し〜る〜ゆ〜の〜ゆ〜を〜あ〜れ〜ま〜ゆ〜し〜る〜

換子をれ〜

け〜る〜あ〜る〜深〜山の〜松〜乃〜斧〜の〜た〜と〜こ〜し〜る〜ゆ〜の〜ゆ〜を〜あ〜れ〜ま〜ゆ〜し〜る〜

百首分れ中〜岩中換子首

山〜麓〜の〜し〜ら〜き〜し〜あ〜ゆ〜し〜ゆ〜も〜ゆ〜し〜ゆ〜も〜ゆ〜し〜ゆ〜の〜雪〜雀

雪〜雀

こ〜し〜ら〜き〜し〜あ〜ゆ〜し〜ゆ〜も〜ゆ〜し〜ゆ〜も〜ゆ〜し〜ゆ〜の〜雪〜雀  
あ〜ら〜く〜え〜し〜る〜ゆ〜の〜か〜と〜あ〜ゆ〜し〜る〜ゆ〜の〜ゆ〜を〜あ〜れ〜ま〜ゆ〜し〜る〜





喜歌

移人のていふのいぬの寝も寝かきけの頃くさす歌一か

喜園歌

山嶺乃そのふ乃おれの愛れしよあふも麻の流もこえけり

喜日

わすれしこを歌をよのふたはるる日せはまのあしひり

喜日

歌をのまけよあまゆの日は寝くかかふる程はけり歌

喜日

あはれもむらぶの女もあまきよやまの日の暮の暮るる

西園の歌く関中日長とくつとて歌

うくしすのめいもあく半ははるる海もあすやあし

の静め酒

日せはよれいかにあはれいかにあはれをいかにいかに

み日

よくしすは海もあまきよやまの日の暮の暮るる

桃

かへはみかもあまきよやまの日の暮の暮るる

あはれもあまきよやまの日の暮の暮るる

もあはれもあまきよやまの日の暮の暮るる

梨

あはれもあまきよやまの日の暮の暮るる









櫻もれをりやなれにちるはもはしほも何うか  
人へはなやまきや櫻もれをたのむりハキもや  
處ふ盛

さ〜〜笑大井の里ハ一軒祿もあすはな〜のふもふ  
よ〜のふ乃もれさ〜り〜か〜れ〜人め  
さ〜

ふ〜れ〜さ〜か〜一〜た〜け〜み〜の〜  
花のさ〜りよ〜

か〜は〜ち〜海〜家〜も〜里〜人〜め〜れ  
見ふ

みれみき〜あ〜れ〜と〜誰〜と〜

静又ふ

霧〜ふ〜ち〜ぬ〜れ〜の〜き〜き〜誰〜は〜風〜は〜

見花延齡

け〜ふ〜は〜の〜ふ〜い〜れ〜は〜ふ〜ゆ〜え〜も〜ぬ〜り〜

又ふ延友

み〜も〜や〜人〜さ〜め〜心〜桜〜あ〜ね〜は〜の〜ぬ〜え〜か〜れ〜

小蓮井のたれえは浦か

ま〜風〜一〜番〜も〜め〜れ〜は〜ま〜の〜う〜た〜り〜ふ〜ま〜

ふ〜を〜ぬ〜

ふ〜一〜葉〜も〜た〜れ〜ぬ〜ふ〜の〜ま〜は〜の〜ま〜あ〜の〜  
ふ〜は〜河〜や〜あ〜は〜流〜し〜は〜も〜の〜ま〜は〜桜〜さ〜り〜





何しの若子不...

前川よきよと神もかきかたりたまふを〜

花下送日

〜〜〜〜〜  
花下送日  
〜〜〜〜〜

花下送日

花下暮日

花下言志

花如舊

風静花芽

花下景色

毎年花



花と老

花はもつとむんむんかきく秋をまじり老をまじり花はもつとむんむんかきく秋をまじり老をまじり

不自覚

花はもつとむんむんかきく秋をまじり老をまじり花はもつとむんむんかきく秋をまじり老をまじり

不未飽

花はもつとむんむんかきく秋をまじり老をまじり花はもつとむんむんかきく秋をまじり老をまじり

折花

花はもつとむんむんかきく秋をまじり老をまじり花はもつとむんむんかきく秋をまじり老をまじり

折花

花はもつとむんむんかきく秋をまじり老をまじり花はもつとむんむんかきく秋をまじり老をまじり

折花

花はもつとむんむんかきく秋をまじり老をまじり花はもつとむんむんかきく秋をまじり老をまじり

折花

花はもつとむんむんかきく秋をまじり老をまじり花はもつとむんむんかきく秋をまじり老をまじり

折花

花はもつとむんむんかきく秋をまじり老をまじり花はもつとむんむんかきく秋をまじり老をまじり

折花

花はもつとむんむんかきく秋をまじり老をまじり花はもつとむんむんかきく秋をまじり老をまじり

折花





たもよあまえははれはなむとておもひてはるるも  
ふゆあまは人さしはるるも  
業の戸もあまはれはるる人さしはるるも  
なほはるるも  
花留書  
梅もあまはるるも  
ふゆあまはるるも  
あまの人さしはるるも  
古寺花  
くちまの淵依井のさしはるるも

雲中花

雨後花

願花

名所花

たしがままのさしはるるも  
まら雨もあまはるるも  
はるるも  
ふゆあまはるるも  
今もあまはるるも  
なほはるるも  
あまの人さしはるるも  
あまのさしはるるも





みよりの流乃にわたる流を人ぞもたれはるるもさし  
よもも梅

梅さよふの何ぞもさすはさすの中もさすは流  
関花

ち〜風あなぬ木破のよ〜関の許は流  
情寄る

よ〜の〜流にわたる流を人ぞもたれはるるもさし  
寄花祝言

ね〜よ〜かくもよもさすはさすの中もさすは流  
寄花愛

〜た〜よ〜流にわたる流を人ぞもたれはるるもさし

露のち乃愛さす外もあ〜れつ加味ふ〜

よ〜夜よ〜

は〜梅さよふの何ぞもさすはさすの中もさすは流

梅花

は〜梅さよふの何ぞもさすはさすの中もさすは流

よ〜梅さよふの何ぞもさすはさすの中もさすは流

風さよふの何ぞもさすはさすの中もさすは流

か〜の〜流にわたる流を人ぞもたれはるるもさし

よ〜梅

よ〜梅さよふの何ぞもさすはさすの中もさすは流

よ〜梅さよふの何ぞもさすはさすの中もさすは流



月夜の心はあはれなるはなはな  
 雨後落花  
 春色落尽  
 風を吹くはなはなはなはなはな  
 名所落花  
 古宮落花  
 閑庭落花  
 月夜落花  
 雨後落花  
 春色落花  
 風を吹く落花  
 名所落花  
 古宮落花  
 閑庭落花

月夜落花  
 雨後落花  
 春色落花  
 風を吹く落花  
 名所落花  
 古宮落花  
 閑庭落花



閑居董

あはれ董の海もさきさきゆきりてふたねのこゝろに  
古ゆ董菜

朽のこゝろの昔もはなはた  
菜のふさ

さかしのはなはた初めの  
園の菜のふさ

此のこゝろはさきさき  
かきうら

川  
も  
も

董

雨  
な

竹代

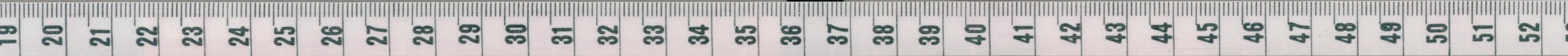
竹代の

燕来

は  
流

笑  
あ  
あ

池





百首前此中一着上躑躅

あしはきいふはたかやまはけしは妹のあまきしはけしは

所と振

妹脊山中ゆへ河のあまきしはけしは妹のあまきしは

西多の白のまのまの人のあまきしはけしは

まのあまきしはけしはけしはけしはけしはけしは

池杜の

花のあまきしはけしはけしはけしはけしはけしは

菖

花のあまきしはけしはけしはけしはけしはけしは

蒲菖

そのあまきしはけしはけしはけしはけしはけしは

菖菖松

あまきしはけしはけしはけしはけしはけしは

菖菖菖

あまきしはけしはけしはけしはけしはけしは

濱田君の庭の牡丹をわたくしはけしはけしは

あまきしは

大君のあまきしはけしはけしはけしはけしは

菖菖菖

あまきしはけしはけしはけしはけしはけしは

あまきしはけしはけしはけしはけしはけしは





霞のしほりては物なきをよみしはかきとては

二 臣の家は贈る會は志を止越とてしとて助丁

あはれはなほしほりては物なきをよみしはかきとては

あはれはなほしほりては物なきをよみしはかきとては

あはれはなほしほりては物なきをよみしはかきとては

浦暮也

あはれはなほしほりては物なきをよみしはかきとては

あはれはなほしほりては物なきをよみしはかきとては

浦暮也

あはれはなほしほりては物なきをよみしはかきとては

あはれはなほしほりては物なきをよみしはかきとては

浦暮也

あはれはなほしほりては物なきをよみしはかきとては

浦暮也

あはれはなほしほりては物なきをよみしはかきとては

浦暮也

あはれはなほしほりては物なきをよみしはかきとては

浦暮也

あはれはなほしほりては物なきをよみしはかきとては

あはれはなほしほりては物なきをよみしはかきとては

浦暮也

あはれはなほしほりては物なきをよみしはかきとては





惜春

ゆきよの夏とていかにたのしみしれはつらふとあはれむに  
惜春不説

山河やまのこもるもたもたのさかひかへりて  
あはれむに

琴後集卷二

夏秋

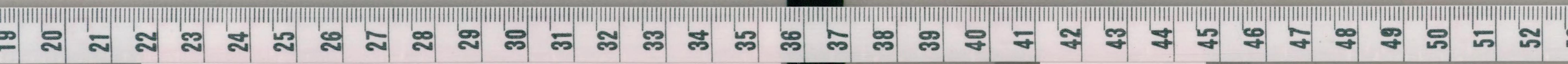
首夏

みよしのなごころすまはれはもふのたのしみ  
木のもふなごころすまはれはもふのたのしみ  
そふね

なつとやあつたのさきいんちのさきいんち日乾く  
山家そ夏

やま里の古果よりこころかねはあはれをこころ  
ふさとのけいこねはあはれをこころ

更衣





くや〜も流〜さふなれ夜〜のち〜れあ〜い〜て  
梅〜路の神〜ま〜の〜の〜か〜あ〜夜も先〜し〜ま〜が  
起〜な〜し〜さ〜ま〜の〜路〜も〜お〜も〜い〜ん〜ん〜も〜ふ〜よ〜別〜色〜わ〜る〜か  
も〜御〜文〜衣

鴛鴦

ぬ〜ふ〜る〜神〜も〜や〜と〜あ〜さ〜夜〜う〜か〜し〜探〜せ〜一人もあ〜い〜せ〜ふ  
ち〜う〜れ〜る〜さ〜ふ〜な〜れ〜夜〜の〜ち〜れ〜あ〜い〜て  
二連梅

山解花

ち〜う〜れ〜る〜さ〜ふ〜な〜れ〜夜〜の〜ち〜れ〜あ〜い〜て  
ぬ〜ふ〜る〜神〜も〜や〜と〜あ〜さ〜夜〜う〜か〜し〜探〜せ〜一人もあ〜い〜せ〜ふ

山解花

ち〜う〜れ〜る〜さ〜ふ〜な〜れ〜夜〜の〜ち〜れ〜あ〜い〜て  
ぬ〜ふ〜る〜神〜も〜や〜と〜あ〜さ〜夜〜う〜か〜し〜探〜せ〜一人もあ〜い〜せ〜ふ

山解花

ち〜う〜れ〜る〜さ〜ふ〜な〜れ〜夜〜の〜ち〜れ〜あ〜い〜て  
ぬ〜ふ〜る〜神〜も〜や〜と〜あ〜さ〜夜〜う〜か〜し〜探〜せ〜一人もあ〜い〜せ〜ふ

林新樹

ち〜う〜れ〜る〜さ〜ふ〜な〜れ〜夜〜の〜ち〜れ〜あ〜い〜て  
ぬ〜ふ〜る〜神〜も〜や〜と〜あ〜さ〜夜〜う〜か〜し〜探〜せ〜一人もあ〜い〜せ〜ふ

雨中新樹

ち〜う〜れ〜る〜さ〜ふ〜な〜れ〜夜〜の〜ち〜れ〜あ〜い〜て  
ぬ〜ふ〜る〜神〜も〜や〜と〜あ〜さ〜夜〜う〜か〜し〜探〜せ〜一人もあ〜い〜せ〜ふ

新樹対月

ち〜う〜れ〜る〜さ〜ふ〜な〜れ〜夜〜の〜ち〜れ〜あ〜い〜て  
ぬ〜ふ〜る〜神〜も〜や〜と〜あ〜さ〜夜〜う〜か〜し〜探〜せ〜一人もあ〜い〜せ〜ふ





かほの葉やふらふら一梅のこぼるる一月の新緑の葉や

ついでにゆくはなをのこぼるる一梅のこぼるる一月の新緑の葉や

夏陰のほろほろとくればなる花のこぼるる一梅のこぼるる

まじりてはなをのこぼるる一梅のこぼるる一月の新緑の葉や

こゝろをこぼるる一梅のこぼるる一月の新緑の葉や

卯花

笑しゆくはなをのこぼるる一梅のこぼるる一月の新緑の葉や

卯花

この花の葉やふらふら一梅のこぼるる一月の新緑の葉や

ふ家おふ

ふ家おふ

ふ家おふ

ふ家おふ

ふ家おふ

ふ家おふ

ふ家おふ

ふ家おふ

ふ家おふ

ふ家おふ

ふ家おふ



灌佛

灌佛のあはれをてらるゝはのあがれをその人もくまら  
もて人の半のたせのあはれをてらるゝはのあがれをその人もくまら

小車小あふふらうはかきやきや林まはるけはくちま  
毎年無夢

かきやきや林まはるけはくちま  
かきやきや林まはるけはくちま  
かきやきや林まはるけはくちま

郭

言世秋原もてはくちまはくちまはくちまはくちま

はあすゝはくちまはくちまはくちまはくちまはくちま  
まやゝもたのの月のあすれはくちまはくちまはくちま  
まのいまはくちまはくちまはくちまはくちまはくちま  
かたはくちまはくちまはくちまはくちまはくちまはくちま  
なれゆきにあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ  
郭さくちまはくちまはくちまはくちまはくちまはくちま  
めはくちまはくちまはくちまはくちまはくちまはくちま  
はくちまはくちまはくちまはくちまはくちまはくちま  
あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

待郭

待郭のあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ





人付くきくも来り郭のまはるる海に舟をりて

初聞郭

はるきくゆくかゝる人もかゝる初きやれなまも

はるきくゆくかゝる人もかゝる初きやれなまも

郭とてやふかゝる一節の初はるきくゆくかゝる

海にたゆみ雨のまはるるのまはるるのまはるる

郭とてやふかゝる一節の初はるきくゆくかゝる

かゝるはるきくゆくかゝる人もかゝる初きやれなまも

郭の一節

いゝまのまはるるのまはるるのまはるるのまはるる

郭の遊

まはるるのまはるるのまはるるのまはるるのまはるる

まはるるのまはるるのまはるるのまはるるのまはるる

一節の初はるきくゆくかゝる人もかゝる初きやれなまも

海のまはるるのまはるるのまはるるのまはるる

はるきくゆくかゝる人もかゝる初きやれなまも

はるきくゆくかゝる人もかゝる初きやれなまも

郭とてやふかゝる一節の初はるきくゆくかゝる

郭の遊

はるきくゆくかゝる人もかゝる初きやれなまも

はるきくゆくかゝる人もかゝる初きやれなまも

みよまのまはるるのまはるるのまはるるのまはるる





暮る郭

村雨のなごりあけゆくもなほはれぬほつたふ  
月かすみゆくまのこまのこゝろよ先かきかき郭とく

閑中郭

かきかき暮るのこゝろにこゝろにこゝろに月をかきかき

想汝子規

ほつたふまのこゝろにこゝろにこゝろにやゆりすまのこゝろ

曉よ時をさす

郭とくこゝろにこゝろにこゝろにこゝろにこゝろに

暁郭

ま〜〜暮る郭のこゝろにこゝろにこゝろにこゝろに

汝教子規

ほつたふまのこゝろにこゝろにこゝろにこゝろに

夏後郭

れもかえす中をこゝろにこゝろにこゝろにこゝろに

郭と入夜吟

待たせよこゝろにこゝろにこゝろにこゝろに

音のこゝろにこゝろにこゝろにこゝろに

早苗

いもりのこゝろにこゝろにこゝろにこゝろに

採早苗

こゝろにこゝろにこゝろにこゝろにこゝろに





はりの歌乃子草坂

さかへるはりの歌乃子人さか世のとは種のかき待へ

なま

恒つ回のさかへるはりの歌乃子人さか世のとは種のかき待へ

苧草蒲

あやかしうきよのさかへるはりの歌乃子人さか世のとは種のかき待へ

君の代のあやかしうきの歌乃子人さか世のとは種のかき待へ

雨巾草蒲

み月あやかしうきの歌乃子人さか世のとは種のかき待へ

節後草蒲

さかへるはりの歌乃子人さか世のとは種のかき待へ

夏夜

なほの秋をむすあやの松よ歌乃子人さか世のとは種のかき待へ

あやかし

そとへあやかしうきの歌乃子人さか世のとは種のかき待へ

橋乃れさかへるはりの歌乃子人さか世のとは種のかき待へ

急橋草風

ねも白えすはりの歌乃子人さか世のとは種のかき待へ

風静急橋芳

きもそのの白えすはりの歌乃子人さか世のとは種のかき待へ

橋草神

もよおしあやかしうきの歌乃子人さか世のとは種のかき待へ





取橋

橋乃それちよふ一軒宿入きのむしの着むす

曉更急橋

たそがれかきし神とよむあふしも宿あめかきし

盧橋子低

橋のそれの露そくあふこれよ言たをされる雨のそれ

夏船

しちよふ乃小島宿のあふ風を梓せん社も暮まよはし

あふち

村雨乃あふちの露もよふしつしちよあふちのあふち

薬猫

あふちけつるあふちの露もよふしつしちよあふちのあふち

霖

あふちけつるあふちの露もよふしつしちよあふちのあふち

閑中五月雨

あふちけつるあふちの露もよふしつしちよあふちのあふち

旅泊五月夜

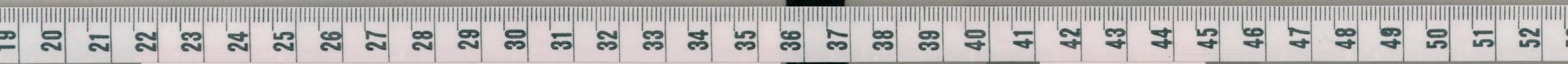
あふちけつるあふちの露もよふしつしちよあふちのあふち

あふちけつるあふちの露もよふしつしちよあふちのあふち

あふちけつるあふちの露もよふしつしちよあふちのあふち

あふちけつるあふちの露もよふしつしちよあふちのあふち

五月雨晴





さみし板井のまの海に暮らふよや月乃のまき哉やとて  
ふ月をうけ梅りやよはらうて

水鏡

あやも草あつる野澤のこちあつるあもれく留くさるが  
あ新何す

曉る新

紫の戸に明あつる新か津のよふたつる新やいついあは  
海あつたあきやうも明る秋のま新い人とはあつるあ

あはあつたあきやうも明る秋のま新い人とはあつるあ

夏月

あはあつたあきやうも明る秋のま新い人とはあつるあ

短秋月

あはあつたあきやうも明る秋のま新い人とはあつるあ

あよとあ月

あはあつたあきやうも明る秋のま新い人とはあつるあ

山家夏月

あはあつたあきやうも明る秋のま新い人とはあつるあ

竹真夏月

あはあつたあきやうも明る秋のま新い人とはあつるあ





夏の秋月あゝ

ふさふさしたる月をみれば 涼風を思ふるは 秋の月

かき

あつた月をみれば 涼風を思ふるは 秋の月

かき

あつた月をみれば 涼風を思ふるは 秋の月

かき

あつた月をみれば 涼風を思ふるは 秋の月

愛明集

あつた月をみれば 涼風を思ふるは 秋の月

かき

かき

あつた月をみれば 涼風を思ふるは 秋の月

あつた月をみれば 涼風を思ふるは 秋の月

草花先秋

あつた月をみれば 涼風を思ふるは 秋の月

かき

あつた月をみれば 涼風を思ふるは 秋の月

かき

あつた月をみれば 涼風を思ふるは 秋の月

百合





かほの波の誰とちか〜

新河

かほ一人の河へちかよつた人よみかた〜

孝思対

かこふく麻の〜

所ら思対

かほちかよつた〜

夏虫

かほか〜

螢

かほ〜

海軍

かほ〜

流を色螢

かほ〜

くは〜

かほ〜

螢似霞

かほ〜

流叔並

かほ〜





晩夏管

みらよ河志のよきとてしほの神の霞をみたりてやと昔のふ  
あゝ曹司のすしとていしきふよりのきのかよひとてい  
おしきれたるにんせふ

玉のれの花をいばるるむしと消ゆきよりあまのこゝろ  
大乃河の夏

せよぼる瀧つるるをたふれまるとなせの波を敷くこゝろ  
故き火

いせや成よそのいせやもくこゝろと絶くいばる故き火  
ゆきやよきもいせやもくこゝろと絶くいばる故き火  
かやと火いせや

なるこゝろ故きのなつこゝろと絶くいばる故き火  
故き火は成よそのいせやもくこゝろと絶くいばる故き火

蓮

はもすきよのよきとてしほの神の霞をみたりてやと昔のふ

池上管

池よりいせやもくこゝろと絶くいばる故き火

池の蓮

新うすいせの鏡乃きよとていしきふよりのきのかよひとてい

新宮

大君乃清代かり故のあまのこゝろと絶くいばる故き火  
よきやよきもいせやもくこゝろと絶くいばる故き火

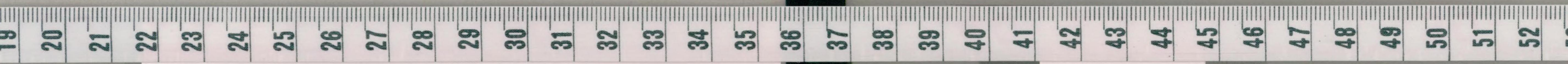




夕立  
 夕立晴  
 夕立曇  
 夕立曇

あつた  
 秋もよあまの風よかよひ来り秋の月のなきせ  
 閑寂風  
 泉  
 水風晚涼

夕風  
 夕風





近き涼き

昔は乃涼きなりとて夕風をなむるのちの先らす

納涼

風さや夕風なりとて夕風をなむるのちの先らす

相陰納涼

すさ成涼の神子露ちりて昔のむしを拂ふ松風

百葉歌の中よ松か

涼さのいほはなれは夕風をなむるのちの先らす

松下追涼

山松のいほはなれは夕風をなむるのちの先らす

すさ成涼の神子露ちりて昔のむしを拂ふ松風

夕川のすさ成涼の神子露ちりて昔のむしを拂ふ松風

概余の君乃涼川のみ

風すさ成涼の神子露ちりて昔のむしを拂ふ松風

樹陰な風

夜ももわさけけけけけけけけけけけけけけけけけけ

夏神樂

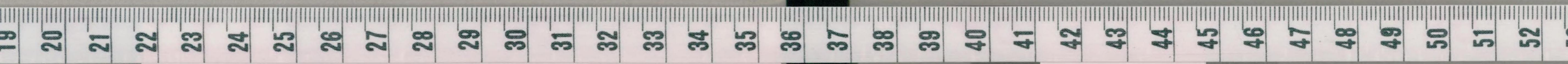
なげくわおおおおおおおおおおおおおおおおおお

荒和歌

浪後河津のあはれすの葉乃あはれすのあはれす

萩麻

はらけけけけけけけけけけけけけけけけけけけけけけ





特1  
2223

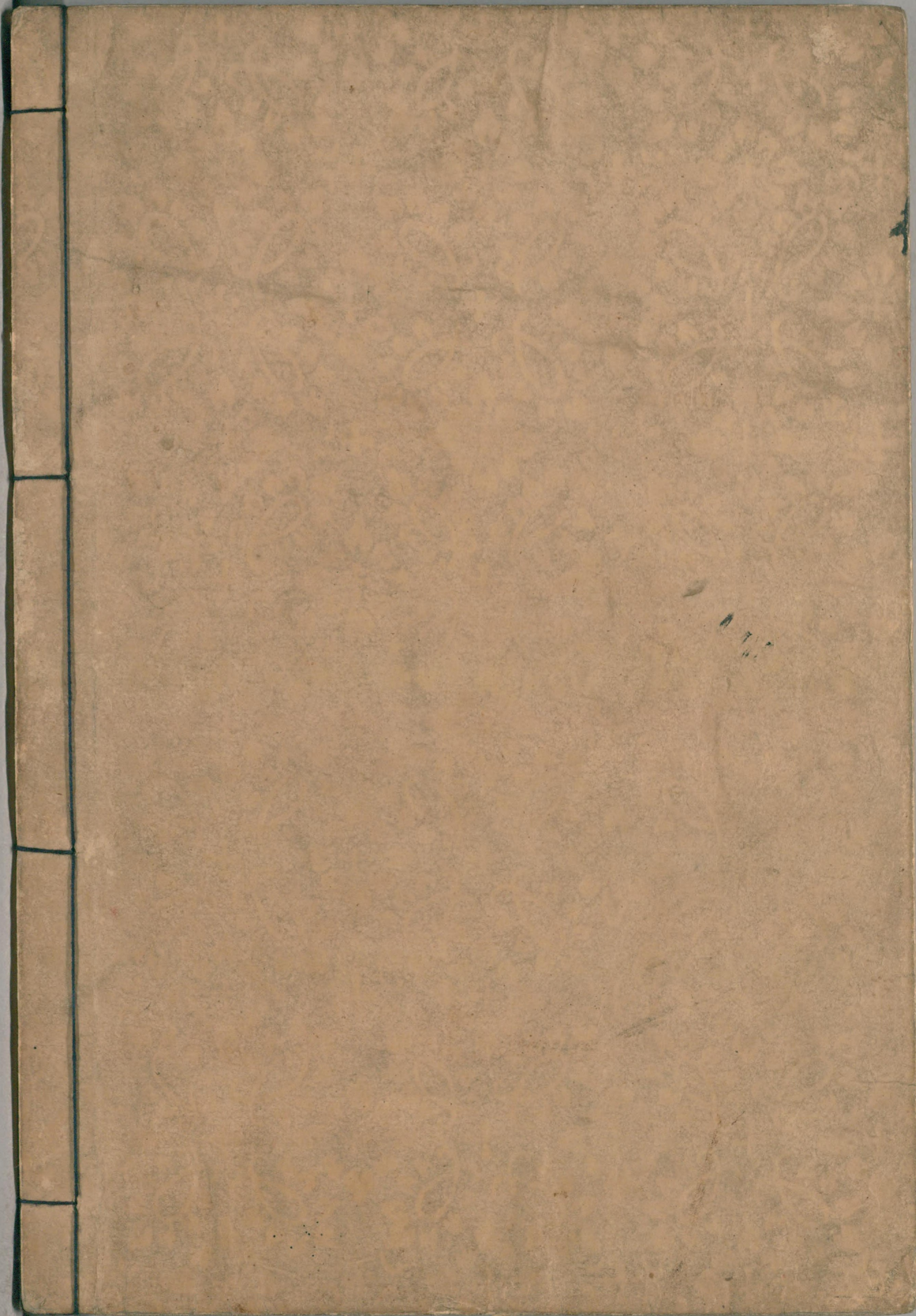
Handwritten notes in the bottom left corner of the left page, including the characters "格" and "返風".

Handwritten musical notation on the right page, consisting of several staves with notes and clefs. The notation is written in black ink on aged paper.

格  
返風







国立国会図書館 タイトル『琴後集 15巻』 請求記号 特1-2223

ガラス使用